

2023、1、27

直方ミニバスケットボールクラブだより

子どもの成長は“揺れ”ながら



子どもの成長には目を見張るものがあります。特に高学年から思春期にさしかかる頃の心身の変化は加速します。ただ変化は常にスムーズなわけでもなく、揺れながら成長します。自分をふりかえる力があれば自ら反省し言動を改めていくことができます。

難しいのは、自他の違いを受けとめ、調整を図ることです。これは、おとなでも難しい課題です。自分はこれが（こうすることが）正しいと思っても、ほかの人もそう思っているとは限りません。自分の「正しい」と相手の「正しい」が違うことがあります。「正しい」ことが一つではないこともあるということです。

自分が「正しい」と思うことを主張することは大切です。しかし、それと同じくらい他者の思いや考えを聴くことも大切です。それが双方に一致する場合はいいですが、一致しないときもあります。そしてそれは、どちらかだけが「正しい」と言えないこともあります。グループ、チーム、集団、社会というように、複数で何かをなそうとすれば、自分の主張が100%通らないことがあるのは当然です。そのとき、相互に互いの主張（違い）を認め合い、そのうえで調整を図り折り合いをつけることができるかどうか、その力が問われます。

往々にして、自分が確信をもって「正しい」と思っていればいるほど、その考えと違う相手の言動を受け入れることができず、自分の主張を押し通そうとすることがあります（攻撃的自己主張）。その延長線上で相手を否定し攻撃してしまうことがあります。受容、許容範囲が狭く、こだわり、偏りが強過ぎると「正義感」も、誤った言動（暴言暴力）を引き起こしてしまふことがあります。

よくわからないこと、まようこと、なやむこと、はっきりしないこと、あいまいなこと、答えが出ないこと…、社会生活のなかにはたくさんあります。あえて、善か悪か、白黒つけられないこと、グレーのまま受けとめることの方が大切なときがあります。ただ、これには「強さ（胆力）」が必要です。人間は、できれば、はっきりさせたい、すっきりしたいと思うものですから。

これから何度となくこんな問題に遭遇することがあるでしょう。どう判断したらいいかわかりづらいことに何度も遭遇することがあるでしょう。学校の勉強のようにはっきりした答えが出ない問題の方がよほど多いのが社会です。無理に答えを出そうとすれば、そのことで誰かを傷つけてしまうこともあることを、おとなは経験上知っているから、多くの人が「熟考」「配慮」するなど、慎重な対応をとることができます。しかし、それは、一朝一夕に身につくものではなく、子ども時代から体験と学びを重ねるなかで徐々に身につけていくものです。感じ方、考え方は違っても、互いを認め合い、調整を図り、折り合いをつけながら社会生活を営む力を身につけていくことが、これからの長い人生を生き抜くために

重要です。「多様性」「共生」「主体性」「対話」「深い学び」、これらが、これからの教育で大切にされていきます。